

# 高齢者の日常生活 —日本とスウェーデンの比較—

大阪大学大学院人間科学研究科教授 斉藤弥生

## 1. はじめに

スウェーデンが本調査の対象となるのは、第5回調査（平成12年度/2000年度）、第7回調査（平成22年度/2010年度）に続き、3度目である。本稿では「2. 高齢者の世帯構成と子世帯との距離」「3. 医療と介護、老後の住まいの考え方」「4. 経済生活と老後の備え」「5. ソーシャル・ネットワーク」「6. 生活の総合的な満足度」「7. 政策志向」の点から、スウェーデンと日本の調査結果の単純集計を比較し、両国の高齢者の日常生活を描く。本調査は各国60歳以上の方々を調査対象としているが、特に介護や医療を必要とする後期高齢者の生活に焦点をあてるため、必要に応じて、前期高齢者（65歳～74歳）、後期高齢者（75歳以上）に分けて分析を行う。

## 2. 高齢者の世帯構成と子世帯との距離

高齢者の世帯構成はスウェーデンと日本で大きく異なる。スウェーデンでは後期高齢者の64.4%、前期高齢者の42.0%が単身世帯であるのに対し、日本では後期高齢者の23.4%、前期高齢者の12.6%が単身世帯というように、日本に比べ、スウェーデンの単身世帯比率はかなり高い。日本では後期高齢者の44.5%、前期高齢者の45.5%が子どもや孫などと暮らしているが、スウェーデンでは子や孫と暮らすケースはほとんどみられない。（図表1）

図表1. 単身世帯・夫婦世帯の割合（%）

		単身世帯	夫婦二人世帯	その他
日本	65-74歳	12.6	41.9	① 45.5
	75歳以上	23.4	32.1	① 44.5
スウェーデン	65-74歳	42.0	① 53.7	4.3
	75歳以上	① 64.4	34.3	1.3

F4) あなたは、現在、どなたと一緒に暮らしていますか。養子の方も含めて下さい。（○は1つだけ）

※「その他」は「本人と親」、「本人と子」、「本人、子、孫」等の世帯。

「老後における子供や孫とのつきあいについて、あなたはどのようにお考えですか」（Q3）という問いには、「ときどき会って食事や会話をするのがよい」という回答が最も多く、スウェーデンの高齢者では72.7%、日本の高齢者でも50.5%の回答であった。

一方、日本の高齢者では「子供や孫とはいつも一緒に生活できるのがよい」という回答が27.1%もあるが、スウェーデンの高齢者ではわずか3.7%であった。スウェーデンに比べ、日本では子供や孫と一緒に生活したいと考えている高齢者が多い。（図表2）

図表 2. 子供や孫とのつきあい方<60歳以上ベース> (%)

	子供や孫とはいつも一緒に生活できるのがよい	ときどき会って食事や会話をするのがよい	子供や孫とは、たまに会話をする程度でよい	全くつき合わずに生活するのがよい	わからない
日本	②27.1	①50.5	③13.7	1.1	7.7
スウェーデン	③ 3.7	①72.7	②22.9	0.1	0.6

Q3) 老後における子供や孫とのつきあいについて、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに近いものを1つだけあげて下さい。(○は1つだけ)

### 3. 医療と介護、老後の住まいの考え方

「あなたは、病院や診療所などの医療施設へ通院したり、往診に来てもらうなど、「医療サービス」を日頃どのくらい利用していますか」(Q6)という問いに対し、両国ともに前期高齢者より後期高齢者の方が利用頻度が高い。しかし両国には利用頻度に大きな違いがみられ、スウェーデンでは後期高齢者の73.7%、前期高齢者の76.9%が、医療サービスを「年に数回」しか利用していないのに対し、日本では後期高齢者の71.4%、前期高齢者の56.4%が「月1回」以上の利用をしている。日本の高齢者は医療サービスの利用が多く、この傾向は前回調査と同様である。(図表3)

図表 3. 「医療サービス」の利用頻度 (%)

		ほぼ毎日	週に4、5回 くらい	週に2、3回 くらい	週に1回 くらい	月に2、3回 くらい	月に1回 くらい	年に数回	利用して いない
日本	65-74歳	0.4	0.2	2.5	3.5	11.5	①38.3	23.3	20.4
	75歳以上	1.3	0.8	3.3	4.6	14.9	①46.5	16.2	12.3
スウェーデン	65-74歳	-	-	1.1	0.8	4.7	7.9	①76.9	8.5
	75歳以上	0.3	0.3	0.3	1.4	5.2	11.8	①73.7	6.9

Q6) あなたは、病院や診療所などの医療施設へ通院したり、往診に来てもらうなど、「医療サービス」を日頃どのくらい利用しますか。(○は1つだけ)

「あなたは、ふだんどのような「通所・在宅の福祉サービス」を主に利用していますか」(Q8)という問いに対し、両国ともに後期高齢者の利用が前期高齢者より10ポイント以上多くなっており、また高齢者の8割以上がこれらのサービスを利用していない点も両国で共通する。しかし利用するサービスの種類は両国で異なっており、最も利用が多いサービスは、スウェーデンの後期高齢者ではホームヘルプサービス(13.1%)、日本の後期高齢者ではデイサービス(7.2%)である。(図表4)

図表 4. 利用している「通所・在宅の福祉サービス」の種類 (%)

		デイサービス	ホームヘルプ サービス	ショートステイ	その他	利用して いない
日本	65-74歳	0.8	① 1.0	0.2	0.2	97.9
	75歳以上	①7.2	3.1	-	1.8	87.9
スウェーデン	65-74歳	0.8	① 1.9	0.2	0.9	96.2
	75歳以上	1.4	①13.1	0.3	4.2	81.0

Q8) あなたは、ふだんどのような「通所・在宅の福祉サービス」を主に利用していますか。(○は1つだけ)

「あなたは、その「通所・在宅の福祉サービス」をどのくらいの頻度で利用していますか」(Q9)という問いに対して、スウェーデンの後期高齢者は「ほぼ毎日」が32.7%、日本の後期高齢者では「週に1回」「数に2、3回」がともに40.4%である。一人暮らしが多いスウェーデンの後期高齢者はホームヘルプを毎日利用し、子世帯との同居の多い日本の高齢者はデイサービスを週に1～2回利用するという傾向が示されている。(図表5)

図表5. 「通所・在宅の福祉サービス」の利用頻度 (%)

		ほぼ毎日	週に4、5回 くらい	週に2、3回 くらい	週に1回 くらい	月に2、3回 くらい	月に1回 くらい
日本	65-74歳	18.2	9.1	①36.4	18.2	—	18.2
	75歳以上	6.4	6.4	①40.4	①40.4	2.1	4.3
スウェーデン	65-74歳	①30.0	—	10.0	20.0	5.0	15.0
	75歳以上	①32.7	—	10.9	7.3	18.2	20.0

Q9) あなたは、その「通所・在宅の福祉サービス」をどのくらいの頻度で利用していますか。(○は1つだけ)

「もし、あなたの身体の機能が低下して、車いすや介助者が必要になった場合、自宅に留まりたいですか。それともどこかへ引っ越したいですか」(Q24)という問いに対して、スウェーデンでは後期高齢者の43.9%、前期高齢者の48.8%が「改築の上、自宅に留まりたい」と回答しており、日本では後期高齢者52.7%、前期高齢者の49.5%が「現在のまま、自宅に留まりたい」と回答している。

興味深いのは、スウェーデンでは24時間対応の在宅介護があるにもかかわらず、後期高齢者の26.3%、前期高齢者でも22.3%、つまり4分の1の高齢者が「高齢者用住宅へ引っ越したい」と回答している点である。またスウェーデンでは老人ホームや入院を選ぶ高齢者がほとんどなく、「住宅改造」「高齢者住宅」を選ぶ高齢者が多い。これに比べて、日本は「そのまま自宅」か「施設・病院」の二者択一の傾向がみられる。(図表6)

図表6. 車いすや介助者が必要になった場合の住まいの希望 (%)

		現在のまま、 自宅に留まり たい	改築の上、 自宅に留まり たい	高齢者用住 宅へ引っ越 したい	老人ホーム へ入居した い	病院に入院 したい	子供の住宅 へ引っ越した い	その他	無回答
日本	65～74歳	①49.5	②16.5	11.8	15.3	2.3	0.4	3.9	0.2
	75歳以上	①52.7	10.3	5.7	②16.7	5.4	1.5	6.7	1.0
スウェーデン	65～74歳	20.2	①48.8	②22.3	1.1	—	0.4	7.2	—
	75歳以上	23.9	①43.9	②26.3	1.7	—	—	4.2	—

Q24) もし、あなたの身体の機能が低下して、車いすや介助者が必要になった場合、自宅に留まりたいですか。それともどこかへ引っ越したいですか。(○は1つだけ)

「あなたがお住まいの住宅は、次のどれにあたりますか」(F7)という問いに対し、日本では後期高齢者の81.7%、前期高齢者の78.6%が「持ち家(一戸建て)」と回答している。日本では8割の高齢者が「持ち家(一戸建て)」に住んでおり、後期高齢者と前期高齢者ではほとんど違いがみられない。これに対し、スウェーデンでは後期高齢

者と前期高齢者の住まいに違いがみられる。前期高齢者の住まいで最も多いのは「持ち家（一戸建て）」（40.1%）であるのに対し、後期高齢者は「持ち家（分譲マンション等の集合住宅）」（41.2%）となっている。また日本に比べ、スウェーデンでは「賃貸住宅（アパート、マンション、公営・公団等の集合住宅）（27.0%）」に住む高齢者も多く、後期高齢者の2.1%は「高齢者向け住宅・施設」に住んでいる。このことから、スウェーデンでは、高齢になるにつれて、管理がしやすい集合住宅（必要であれば高齢者住宅）に移り替える傾向が推測される。（図表7）

図表7. 現在の住まい

		持家		賃貸住宅		その他	
		一戸建て	分譲マンション等の集合住宅	一戸建て	アパート、マンション、公営・公団等の集合住宅	高齢者向け住宅・施設	その他
日本	65-74歳	①78.6	6.8	4.1	9.5	0.2	0.8
	75歳以上	①81.7	4.4	2.6	10.8	0.5	—
スウェーデン	65-74歳	①40.1	27.8	0.9	30.1	0.1	0.9
	75歳以上	27.0	①41.2	1.7	27.0	2.1	1.0

F7) あなたがお住まいの住宅は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

#### 4. 経済生活と老後の備え

「あなたが、最終的に収入を伴う仕事を辞めたのは何歳のときですか」（Q18）という問いに対し、スウェーデンは平均63.7歳、日本は平均59.4歳であった。<sup>1</sup>

「あなたの主な収入源はどれですか」（Q12）という問いに対し、スウェーデンの高齢者も、日本の高齢者もほとんどが「公的な年金」が収入源となっている。また両国ともに後期高齢者にその傾向が強いことがわかる。また数は少ないが、スウェーデンでは後期高齢者の2.4%、前期高齢者の2.5%が「生活保護」を受給している。日本では後期高齢者の0.3%、前期高齢者の1.2%が「子供などからの援助」を受けているが、その数は限られている。（図表8）

図表8. 生活費の収入源（%）

		仕事による収入	公的な年金 (国民年金、厚生年金など)	私的な年金 (企業年金、個人年金など)	預貯金などの引き出し	財産からの収入	子供などからの援助	生活保護	その他
日本	65-74歳	②21.6	①73.2	1.2	0.2	1.6	1.2	0.6	0.6
	75歳以上	②4.9	①90.5	1.0	0.5	0.8	0.3	1.3	0.8
スウェーデン	65-74歳	②7.8	①81.7	6.2	0.2	0.4	—	2.5	1.3
	75歳以上	1.0	①92.7	2.1	0.3	0.7	—	②2.4	0.7

Q12) あなたの主な収入源はどれですか。1つだけあげて下さい。(○は1つだけ)

「あなた（あなたたちご夫婦）は、50歳代までに、老後の経済生活に備えて特に何かしていましたか」（Q15）という設問に対し、スウェーデンの高齢者は「個人年金への加入」（56.7%）、「債権・株式の保有・投資信託」（40.5%）と回答しているのに対し、

<sup>1</sup> Q18は、1.20歳代ないしはそれ以前：25点、2.30歳代：35点、3.40歳代：45点、4.50歳代：55点、5.60歳代前半（60～64歳）：62点、6.60歳代後半（65～69歳）：67点、7.70歳以降：72点として平均値を算出。

日本の高齢者は「預貯金」(46.6%)、「個人年金への加入」(19.6%)と回答している。

「特に何もしていない」という回答が日本では 42.7%、スウェーデンでは 25.4%であった。スウェーデンの高齢者は充実した社会保障のもとで老後の備えを考える必要がないといわれることが多いが、意外なことに、スウェーデンの高齢者は日本の高齢者に比べて若い時(50歳代前)から何らかの老後の備えをしている。(図表9)

図表9. 50歳代前の老後の備え<60歳以上ベース>(%)

	預貯金	個人年金への加入	債券・株式の保有、投資信託	不動産取得(賃貸収入を得るための取得等)	貴金属の保有(金、宝石等)	老後のために職業能力を高める	その他	特に何もしていない	無回答
日本	①46.6	19.6	7.1	5.0	0.5	6.4	1.4	②42.7	0.1
スウェーデン	29.7	①56.7	②40.5	6.8	0.7	3.2	3.1	25.4	—

Q15) あなた(あなたたちご夫婦)は、50歳代までに、老後の経済生活に備えて特に何かしていましたか。(〇はいくつでも)

「現在の貯蓄や資産は、今後、あなた(あなたたちご夫婦)の老後の備えとして十分だと思えますか」(Q16)に対し、スウェーデンの高齢者の72.7%が十分だとしており、日本の37.4%を大きく上回っている(「十分だと思う」+「まあ十分だと思う」)。(図表10)

図表10. 老後の備えは十分か<60歳以上ベース>(%)

	資産保有の必要性はない	十分だと思う	まあ十分だと思う	やや足りないと思う	まったく足りないと思う	わからない
日本	1.3	10.4	②27.0	①34.9	22.1	4.3
スウェーデン	6.7	②29.0	①43.7	14.3	4.6	1.7

Q16) 現在の貯蓄や資産は、今後、あなた(あなたたちご夫婦)の老後の備えとして十分だと思えますか。(〇は1つだけ)

## 5. ソーシャル・ネットワーク

「あなたは、病気のとときや、一人ではできない日常生活に必要な作業(電球の交換や庭の手入れなど)が必要な時、同居の家族以外に頼れる人がいますか」(Q29)という問いに対し、スウェーデン(後期高齢者59.9%、前期高齢者58.0%)も、日本(後期高齢者67.9%、前期高齢者65.2%)も6割前後の人が「別居の家族・親族」を頼っている。その一方で、スウェーデンの高齢者は日本の高齢者に比べ、友人や近所の人を頼りにしている人も多い。(図表11)

図表11. 同居の家族以外に頼れる人の有無(%)

		別居の家族・親族	友人	近所の人	その他	頼れる人はいない
日本	65-74歳	①65.2	②19.8	16.7	4.1	18.1
	75歳以上	①67.9	13.6	②21.3	4.4	14.7
スウェーデン	65-74歳	①58.0	②47.6	34.0	5.1	10.4
	75歳以上	①59.9	②31.5	30.4	14.2	10.4

Q29) あなたは、病気のとときや、一人ではできない日常生活に必要な作業(電球の交換や庭の手入れなど)が必要なとき、同居の家族以外に頼れる人がいますか。(〇はいくつでも)

「近所の人とは、どのようなお付き合いをなさっていますか」(Q30)という問いに対し、両国ともに「外でちょっと立ち話をする程度」が最も多く、スウェーデンの後期高齢者 87.2%、前期高齢者 89.8%、日本の後期高齢者 63.5%、前期高齢者 68.7%であった。スウェーデンでは、「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」(後期 28.7%、前期 34.2%)、「病気の時に助け合う」(後期 16.6%、前期 19.7%)と回答した高齢者が日本に比べて多い。一方、日本の高齢者では「物をあげたりもらったりする」(後期 44.2%、前期 40.0%)という近所づきあいが多く。スウェーデンでは困り事があったときに家族以外の人を頼っているようであるが、日本の高齢者は近所づきあいをしているにもかかわらず、困りごとについては家族以外の人をあまり頼っていないことが推測される。(図表 12)

図表 12. 近所づきあいの程度 (%)

		お茶や食事を一緒にする	趣味をともにする	相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする	家事やちょっとした用事したり、してもらったりする	病気の時に助け合う	物をあげたりもらったりする	外でちょっと立ち話をする程度	その他	無回答
日本	65-74歳	③26.6	18.8	19.8	6.6	6.6	②40.0	①68.7	9.7	—
	75歳以上	③23.7	14.4	19.8	4.1	4.9	②44.2	①63.5	9.5	1.5
スウェーデン	65-74歳	②36.5	11.0	③34.2	4.0	19.7	26.1	①89.8	7.0	—
	75歳以上	②38.4	7.6	③28.7	2.1	16.6	20.1	①87.2	9.7	—

Q30) あなたは、ふだん、近所の人とは、どのようなおつきあいをなさっていますか。(〇はいくつでも)

「あなたは、次のような情報機器を使って、家族や友人と連絡をとったり、情報を探したりしますか」(Q 34)という問いに対し、スウェーデンの高齢者は情報機器の利用が多く、「いずれも使わない」という回答は後期高齢者で 12.8%、前期高齢者で 2.5%である。一方、日本の回答者では後期高齢者で 44.5%、前期高齢者の 14.6%が「いずれも使わない」と回答しており、情報機器の利用は両国で大きな違いがある。

両国ともに前期高齢者に比べ、後期高齢者の利用が低いものの、スウェーデンの後期高齢者は日本の前期高齢者よりも、すべての項目において高い数字となっている。スウェーデンの後期高齢者では「PCの電子メールで家族・友人などと連絡をとる」という回答が 46.0%、「携帯電話で家族・友人などと連絡をとる」という回答が 81.7%もあり、後期高齢者にとっても情報機器はソーシャル・ネットワークづくりとその維持に欠かせない機器となっている。(図表 13)

図表 13. 情報機器の利用 (%)

		ファックスで家族・友人などと連絡をとる	PCの電子メールで家族・友人などと連絡	インターネットで情報収集、ショッピング	携帯電話で家族・友人などと連絡をとる	携帯電話で情報収集、ショッピングをする	いずれも使わない
日本	65-74歳	13.0	②19.6	19.2	①81.2	6.4	14.6
	75歳以上	6.7	②7.7	3.9	①51.9	2.3	44.5
スウェーデン	65-74歳	0.9	②61.6	60.7	①92.8	30.8	2.5
	75歳以上	0.3	②46.0	37.0	①81.7	13.1	12.8

Q34) あなたは、次のような情報機器を使って、家族や友人と連絡をとったり、情報を探したりしますか。(〇はいくつでも)

「あなたは、家族以外の人で相談し合ったり、世話をし合ったりする親しい友人がいますか」(Q31) という問いに対し、日本の後期高齢者では 35.0%、前期高齢者では 21.7%が「いずれもない」と回答しており、日本では特に、後期高齢者の孤独な状況が懸念される。これに対し、スウェーデンでは「いずれもない」という回答は後期高齢者の 11.8%、前期高齢者の 7.8%で、約 1 割にとどまっている。スウェーデンの高齢者の 9 割は、相談し合ったり世話をし合う親しい友人を持っている。(図表 14)

図表 14. 親しい友人の有無 (%)

		同性の友人が いる	異性の友人が いる	同性・異性の 両方の友人が いる	いずれも いない	わからない
日本	65-74歳	①57.5	2.9	17.1	21.7	0.8
	75歳以上	①53.7	0.5	9.0	35.0	1.8
スウェーデン	65-74歳	29.7	3.0	①59.2	7.8	0.4
	75歳以上	28.0	3.8	①55.4	11.8	1.0

Q31) あなたは、家族以外の人で相談し合ったり、世話をし合ったりする親しい友人がいますか。(○は1つだけ)

## 6. 生活の総合的な満足度

「総合的にみて、あなたは現在の生活に満足していますか」(Q38) という問いに対し、スウェーデンの回答者では前期高齢者の 61.6%、後期高齢者の 60.6%が「満足している」と回答しているのに対し、日本の回答者では前期高齢者の 25.6%、後期高齢者の 37.5%である。日本の後期高齢者に「不満である」(4.4%) という回答がやや目立つ。(図表 15)

図表 15. 生活の満足度 (%)

		満足している	まあ 満足している	やや 不満である	不満である	無回答
日本	65～74歳	25.6	①63.9	8.3	2.1	-
	75歳以上	37.5	①49.1	8.7	4.4	0.3
スウェーデン	65～74歳	①61.6	35.0	2.6	0.8	-
	75歳以上	①60.6	37.4	2.1	-	-

Q38) 総合的にみて、あなたは現在の生活に満足していますか。(○は1つだけ)

## 7. 政策志向

「あなたが大切だと思う、高齢者に対する政策や支援はどれですか」(Q40) に対し、スウェーデンの高齢者では回答が多い順に「公的な年金制度」(71.5%)、「介護や福祉サービス」(70.5%)、「医療サービス」(70.0%)、日本の高齢者では「公的な年金制度」(56.0%)、「介護や福祉サービス」(54.7%)、「医療サービス」(51.9%) であり、高齢者が重要と思う政策が年金・医療・介護であることは共通している。しかし日本の高

齢者は高齢者政策を大切だと思う度合いが全体的に低い。(図表 16)

図表 16. 高齢者に対する大切な高齢者政策・支援<60歳以上ベース> (%)

	働く場の確保	公的な年金制度	老後のための個人的な財産形成の支援	医療サービス	介護や福祉サービス	ボランティア活動のための場の確保	学習のための場の確保	高齢者向けの住宅	高齢者に配慮した街づくり	事故や犯罪防止(財産目当ての犯罪等)	高齢者の人権について一般市民の理解の促進	その他	無回答
日本	22.6	①56.0	12.8	③51.9	②54.7	8.9	8.4	18.8	25.2	17.9	13.7	5.1	0.4
スウェーデン	46.6	①71.5	36.7	③70.0	②70.5	43.0	25.5	62.7	44.4	56.0	41.0	5.0	-

Q40) あなたが大切だと思う、高齢者に対する政策や支援はどれですか。(〇はいくつでも)

「社会保障制度の水準や負担の在り方について、あなたはどの考えに近いですか」(Q41)という問いに対し、スウェーデンの高齢者では「たとえ、今後、税や保険料の負担を増やすことになっても、社会保障制度の現在の水準は向上させるべき」とする回答が 51.7%で最も多く、日本の高齢者の回答 (28.4%) を大きく上回っている。日本の高齢者では「たとえ、今後、税や保険料の負担を増やすことになっても、社会保障制度の現在の水準はできるだけ維持すべき」とする回答が 36.7%で最も多かった。

「できるだけ、今後、税や保険料負担を増やさないようにするためには社会保障制度の現在の水準が下がってもやむを得ない」という回答はスウェーデンの高齢者ではわずか 6.4%であるのに対し、日本では 19.5%であった。スウェーデンに比べて、日本の高齢者は社会保障制度の水準をやむを得ないと考える傾向がみられ、この傾向は前回調査とほぼ同じであった。(図表 17)

図表 17. 社会保障と負担の関係<60歳以上ベース> (%)

	負担を増やしても水準を向上	負担を増やしても水準は維持すべき	負担を増やさないように水準低下	わからない
日本	28.4	①36.7	19.5	15.5
スウェーデン	①51.7	36.4	6.4	5.5

Q41) 社会保障制度の水準や負担の在り方について、あなたはどの考えに近いですか。(〇は1つだけ)

「老後の生活」における生活費について、あなたは、主にどのようにまかなわれるべきだと思いますか。あなたのお考えに近いものを1つだけあげてください」(Q42)という問いに対し、スウェーデンの高齢者では「老後の生活費は、社会保障など公的な援助によってまかなわれるべきである」とする回答が 75.3%で圧倒的に多い(日本の高齢者では 44.9%)。

一方、日本の高齢者では「老後の生活費は、働けるうちに準備し、家族や公的な援助には頼らないようにすべきである」とする回答が 45.7%で最も多かった。この傾向は前回調査とほぼ同じであり、社会保障制度への期待が高いスウェーデンと、公的・制度への期待が持ちにくい日本の高齢者間で意識の違いがみられた。(図表 18)



図表 18. 「老後の生活費」と社会保障<60 歳以上ベース>

	家族や公的援助に頼らないように働いて準備	家族が面倒をみるべきである	社会保障など公的援助がまかなうべき	その他
日本	①45.7	6.0	44.9	3.4
スウェーデン	19.0	0.8	①75.3	4.9

Q42)「老後の生活」における生活費について、あなたは、主にどのようにまかなわれるべきだと思いますか。(〇は1つだけ)

## 8. まとめ

スウェーデンの高齢者の世帯構成をみると、子や孫との同居はほとんどなく、スウェーデンの高齢者は子供や孫とはときどき会って食事や会話をするのがよいと考えている。これに対して日本の高齢者は4割強の高齢者が子や孫と同居しており、スウェーデンに比べると子供と孫との近い距離に期待している。日本では都市部を中心に単身世帯が増えているものの、国際比較では家族と同居が多いという結果となる。

医療と介護、老後の住まいについては、スウェーデンの高齢者は医療サービスの利用は年数回と限られているのに対し、日本の高齢者では半数以上が毎月1回以上、医療サービスを利用している。介護サービスでは、家族と同居が多い日本の高齢者は週1~2回程度のデイサービスを利用し、一人暮らしが多いスウェーデンでは毎日、ホームヘルプを利用するケースが多いというように、利用する介護サービスの種類や頻度にも違いがみられた。

また24時間対応の在宅サービスが整備されているスウェーデンにおいても、身体介護が必要になった時には4分の1程度の高齢者は「高齢者住宅」への移動を希望している点は興味深い。日本では「高齢者住宅」という選択はあまりみられず、「自宅」か「施設・病院」という二者択一となっている。スウェーデンでは後期高齢者になると、管理がしやすい集合住宅に住み替えているようである。後期高齢者が増加する社会で、高齢者が地域に住み続けられるためには、自宅でもない、病院や施設でもない選択肢、つまり自分で生活の管理がしやすい集合的住宅の整備が必要で、そのことが高齢者自身の生活の自立を促し、医療、介護の効果的な提供にもつながる。

ソーシャル・ネットワークについて、スウェーデンの高齢者は家族以外の人たちとのつながりが広く、かつ深いようで、困った時に友人や近所の人に助けをもらっている。スウェーデンの高齢者は社会サービスの利用にオープンで、馴染みがあり、このことが、近隣や友人からの困りごとへの支援を得やすくしているように思われる。日本の「地域包括ケアシステム」<sup>2</sup>の構想は、自助や互助の重要性をうたっているが、日

<sup>2</sup> 「地域包括ケアシステム」：厚生労働省においては、2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進している。

本の高齢者にとって、家族以外の人、例えば近隣や地域の人たちからの支援を気兼ねなく受けられる生活文化をどう築くかが課題となるだろう。

またスウェーデンでは後期高齢者も PC を利用して友人とのメールや買い物等を行っている。インターネットが手軽に利用できる情報基盤整備は重要で、高齢者のソーシャル・ネットワークの拡大にも寄与し、将来的には様々な介護ロボットの導入可能性につながる。

スウェーデンでは、充実した社会保障制度のもとで、老後の経済生活の備えは必要ないと思われがちであるが、スウェーデンの高齢者は日本の高齢者以上に老後の経済生活への備えを行っている。しかし同時に、スウェーデンの高齢者には、社会保障制度が社会連帯のもとに行われることへの支持も根強い。これに対し、日本では高齢者の半数近くが「老後の生活費は働いて準備すべき」と考えながら、50歳代までに老後の備えをしていなかった高齢者が4割を超えている。高齢者自身が自分の生活設計を組み立てる能力を身につけることは、今後の日本の社会保障制度を考える上で、重要な課題といえる。(完)